

読むNスペ   シェアする 	ミニ動画		NHKスペシャル	  専門家に聞く“新型コロナ”との闘い方と対策 シェアする 
--	------	---	----------	--

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
 ぜ“おいしさ”なしに生き  
 いのか?

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
 られないのか? 人類を“  
 インスター”にした「3つの  
 力」

2020年2月21日

記事

# 飲みたくなるのは“進化の宿命”!? 酒の知られざる真実

2020年1月31日

適度な量であれば体に良いとも言われてきた「酒」。ところが最近、「酒に“適量”はなく、飲む量が増えるにつれて病気のリスクも上がる」というショッキングな最新データも発表された。酒は付き合い方によって、まさに天国と地獄!? それを知らながら、なぜ人類はこれほど酒を好む生き物になったのか? その理由を壮大な「人類の進化」の歴史に探ると、なんと私たちの祖先には「酒を“栄養食”として命をつないだ時代」もあった可能性が明らか。それがなぜ「酔うための酒」へと変わったのか。酒が人類にもたらした「3つの大事件」を解き明かし、「酒の知られざる真実」に迫る。

## お酒を「主食」にする人たちがいる!

アフリカ・エチオピア南部、標高約2000メートルの山岳地帯。ここに、人類と酒の「究極の起源」を物

語る人たちがいる。この地域に住む民族「デラシヤ」だ。

シェア



シェアする ?

彼らが飲んでいるのは「パルショータ」というドロドロの液体。デラシヤ伝統の「酒」だ。



パルショータは、モロコシという穀物をすりつぶして壺の中で発酵させて造られる。アルコールの度数はビール程度だ。

デラシヤの人たちはこのパルショータを非常に好み、1日に5リットルも飲む。しかも、その他に食事はほとんどとっていない。じつはこの酒こそがデラシヤの人たちの「主食」なのだ。驚くことに、子どもまでアルコール度を抑えたものを食事として飲んでいる。



不思議なことに、ほとんど酒しか口にしないのに、みんなたくましい体つきの健康体。その秘密を探って、生態人類学者の砂野唯さんが初めて本格的な調査を行った。

パルショータの成分を詳しく分析したところ、驚きの事実が判明する。生きるために欠かせない必須アミノ酸や、ビタミンなどが多く含まれていることが分かったのだ。

新着記事

専門家に聞く“新型コロナ”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きいのか?

2020年2月21日

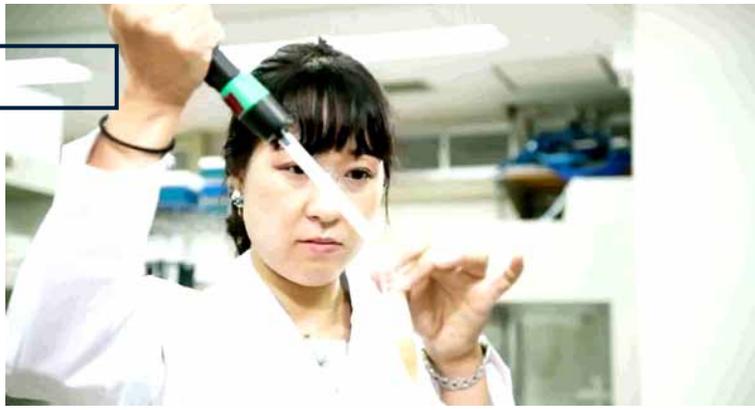
人はなぜ“おいしさ”なしられないのか? 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア



シェアする ?



「私たちと違って、肉や野菜といったものを全く食べておらず、穀物（モロコシ）から造ったお酒だけをひたすら飲んでこれだけの栄養価をとっているというのは、とても驚くべきことだと思います。」  
（砂野さん）

## 人間が地球上で「最強の飲んべえ」になったわけ

デラシャの人たちにとって、「酒が“栄養食”」だという驚きの事実。じつはそれが「人類がこれほど酒を好む“最強の飲んべえ”に進化」した、「第1の大事件」と深く関係しているという。

人類と酒の意外な原点を解き明かしたのは、“飲んべえ”には欠かせない特別な遺伝子「アルコール分解遺伝子」について研究している、生物化学者のマシュー・キャリガンさんだ。



アルコール分解遺伝子は、体にとって有害性もあるアルコールを体内で別の物質に分解する「ある酵素」を作り出す働きをしている。キャリガンさんが詳しく分析を行ったところ、興味深いことが分かった。

新着記事

専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きいいのか?

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なしられないのか? 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア



シェアする ?

およそ1200万年前、木の上で暮らしていた私たちの祖先の体の中に、突如とても強いアルコール分解遺伝子が出現。それがその後、ゴリラ、チンパンジー、そして人間といった一部の類人猿にだけ受け継がれたというのだ。そのため、ほとんどの動物は体内でアルコールを分解する力が弱く、酒など口でできないのに、祖先からこの強いアルコール分解遺伝子を受け継いだ類人猿や人間は、強い酒でも飲むことができる。まさに、選ばれし“最強の飲んべえ”への大進化だ。

それにしても、酒などなかった1200万年も前の祖先に、なぜ「酒に強くなる遺伝子」が備わったのか？

「祖先が手に入れた高いアルコール分解能力は、生き延びるために、とても重要だったと考えられるのです。」（キャリガンさん）

キャリガンさんが考える「最強の飲んべえ」誕生のシナリオは、こうだ。およそ1200万年前のアフリカ大陸で、私たちの祖先は木の上で果実などを主に食べていた。穏やかな気候で、食べ物には困らない幸せな時代だった。

ところが、地球規模の気候変動で大地が急速に乾燥化し始め、森の木が次々と消滅。果実も減り、食べる物がなくなってしまった。

運良く地面に落ちた果実を見つけても、完熟して、実に含まれる糖分が自然発酵し、だいぶんアルコールに変化してしまっているようなことが少なくなかったと考えられる。それでも飢えから逃れるために食べた祖先は、まだ体内に強いアルコール分解遺伝子がなく、少量のアルコールでも酔っ払ったようになり、強い動物に襲われてしまうこともあったかもしれない。

そんな中、ある時一部の祖先の体内で遺伝子に突然変異が起き、アルコール分解遺伝子が偶然とても強力になったと考えられる。強い分解遺伝子を期せずして手に入れた祖先は、発酵した果実を食べても酔っ払うことなく、栄養を得ることができたに違いない。こうして幸運にも「酒になった果実」を食べら

新着記事

専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きいいのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なしに生きられないのか？ 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア

れるようになった祖先だけが生き延びて、数を増やしていったと考えられるのだ。



シェアする ?

その遺伝子を受け継いで「地球上で最強の飲んべえ」となったのが、私たち人類だ。これほど強力なアルコール分解遺伝子を手に入れたのは、まったくの偶然だっただろうと、遺伝子で酒と人類の関係を探る東京大学・太田博樹教授は語る。



「たぶん落ちた果物とか、発酵したものを口に入れて、食べられる祖先と食べられない祖先がいたんでしょね。僕らの祖先は食べても大丈夫だった。遺伝子の突然変異というのは、いつも偶然起こるんですね。だけど、その遺伝子がなくならずに現在のわれわれにまで伝わっているというのは、たぶん、強いアルコール分解遺伝子が生きる上で何か役に立ったからだろう。」（太田さん）

「酒になった果実」から栄養を得て生き延びたとも考えられる、人類の祖先。デラシャの人たちが「酒を主食に」して生きる姿は、そんな遠い祖先と酒との原点を今に留めているかのようだ。しかし、そうした特別な食文化を除けば、現代人にとって酒は“栄養食”ではなく“酔うための飲み物”だ。一体なにがこの大転換を引き起こしたのか？

そこには酒をめぐる「第2の重大事件」があった。

事件の始まりは、中東の国・トルコ。今からおおよそ1万2000年前に人類が農耕を始めた、歴史的な地域だ。

その一角に、人類史上最古ともいわれる大規模な遺跡が発見された。直径およそ300メートルもの範囲に、高さ5メートル以上ある巨大な柱が立ち並ぶ

新着記事

専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きいいのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なしられないのか？ 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

「神殿」らしき遺跡、世界遺産ギョベックリ・テペ

シェア だ。



シェアする ?



その場所で、容積が最大およそ160リットルもある大きな石の器がいくつも発見され、その器の表面から「シュウ酸塩」という、小麦を発酵させたときにできる物質が検出された。1万年以上前の人々が、この石の器で大掛かりに小麦から酒を造っていた可能性が浮かび上がってきたのだ。



なぜ人類はこの時代にこの場所で、大量に酒を造り始めたのか？

当時、神殿の周辺には異なる部族が住み着いて、集団生活をしていたとみられている。その部族同士で血なまぐさい争いが起きていた可能性が、同じ地域での発掘調査から見えてきた。

そんな時代に、これほどの大神殿を築き上げるには、多くの人々が力を合わせなければならなかったはずだ。酒には、人々の友好を深め、一致団結させる力がある。神殿建造のために集まった人たちが、大量に造った酒をみんなで飲み、宴を開いていた可能性がある。考古学者のローラ・ディートリッヒさんは考える。

新着記事

専門家に聞く“新型コロナ  
ス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
ぜ“おいしさ”なしに生き  
いのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
られないのか？ 人類を“  
ンスター”にした「3つの  
力」

2020年2月21日

シェア



シェアする ?

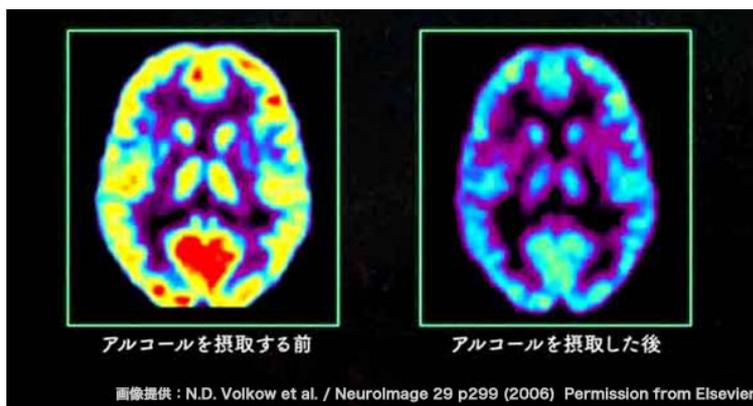


「神殿の建造には、何百もの人が集まったはずで  
す。大量の酒は、異なる部族が共に酌み交わし、結  
束力を生む重要な役割を果たしたと考えられるので  
す。」（ディートリッヒさん）

祖先たちが発見した、人々を結びつける「酒の不思議な力」。それには、アルコールが脳にもたらす特別な作用が関わっていることが分かってきている。私たちの脳は、表層の部分に「理性」を生み出す働きがある。初対面の人に緊張感や警戒心を抱くのは、この「理性」が働くからだ。

では、酒を飲むとどうなるか？

脳の断面を見ると、アルコールを摂取する前（下図左）は理性を司る表層付近が黄色から赤と活発に働いていたのが、少量のアルコールを摂取しただけで青くなった（下図右）。



つまり、アルコールによって理性の働きが弱められたのだ。そのおかげで警戒心が解けて、気分が開放的になり、人と打ち解けやすくなると考えられる。まさに「酔いがもたらす効用」だ。

「人類最初の文明の証」とも言われる大神殿で造られ始めたと考えられる、大量の酒。これを皮切り

新着記事

専門家に聞く“新型コロナ  
ス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
ぜ“おいしさ”なしに生き  
いのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
られないのか？ 人類を“  
ンスター”にした「3つの  
力」

2020年2月21日

シェア



シェアする



に、酒は「人と人を結び、文明や社会を築く特別な力」として、欠かせない存在になっていくのである。

## 恐るべき酒の魔力

人間関係を築く特別な力を持つ酒。ところがさらに時代がくだり、文明社会が発展するにつれて、いよいよ「人類が酒に脳を乗っ取られる」という事態が起こり始める。

およそ5000年前の古代エジプトでは、ビールが労働者の賃金として支給されるまでになっていた。発見された、当時の労働者たちの出勤簿を見ると、なんと仕事を休む理由として「飲酒」という文字が。さらに、ブドウを育ててビールより度数の高いワインも造られ始めていた。すると人類に異変が！壁画に、「吐くまで飲む貴族の姿」が描かれていたのだ。



資料提供：Wilkinson, J.G. The manners and customs of the ancient Egyptians

そこまで人間が酒のとりこになった原因は、脳を操る「恐るべき酒の魔力」にあった。

酒を飲むと、アルコールは血液に乗って脳へと向かう。脳の血管の壁には、異物の侵入を防ぐ特別なバリアがあるが、アルコールは非常に小さい物質のため、そのバリアをすり抜けて脳の内部まで入り込んでしまう。

脳の中には「ドーパミン」という快楽物質を放出する細胞がある。アルコールが脳内に増えるにつれて、この細胞が興奮状態になり、歯止めなくドーパミンを放出。すると快楽が暴走し、飲みたい気持ち

新着記事

専門家に聞く“新型コロナ  
ス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
ぜ“おいしさ”なしに生き  
いのか?

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
られないのか? 人類を“  
ンスター”にした「3つの  
力」

2020年2月21日

シェア

を止められなくなるのだ。いわば「アルコールに脳を乗っ取られてしまった」ような状態だ。



シェアする ?

アルコールが脳にもたらず「酔いの快楽」に魅せられて、人類はさらに強い酒を求め始める。8世紀頃には、ついに「究極の酒」を生み出した。酒からアルコール分を取り出して、より度数の高い「蒸留酒」を造り始めたのだ。ブランデーに焼酎、ウォッカなど…少量でもすぐに酔うことができる、まさに「快楽をもたらす酒」とも言える。



中世の蒸留酒造りのようす

脳をリラックスさせ、人と人をつなぐ「特別な力」として欠かせないものとなった酒。しかし、楽しく宴会に興じるうちに、気づくと人類の脳は「アルコールの魔力」に乗っ取られ、際限なく飲みたくなってしまいう生き物になっていたのだ。

## 日本人、わざわざ酒に弱くなる!? 「第3の重大事件」

酒に脳を操られることまで起き始めた人類。ところが話はまだ終わらない。さらに追い打ちをかけるかのように、酒がとりわけ日本人の祖先に「第3の重大事件」を引き起こすことになる。それは、なぜか日本人の祖先が突如酒に弱くなるという、謎の進化にまつわるものだ。

調査によると、欧米やアフリカ系の民族には、飲んですぐ顔が赤くなるような「酒に弱い体質」の人がほとんどいないが、日本や中国、韓国などには、「酒に弱い人」が非常に多い。

新着記事

### 専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

### 人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きていくのか?

2020年2月21日

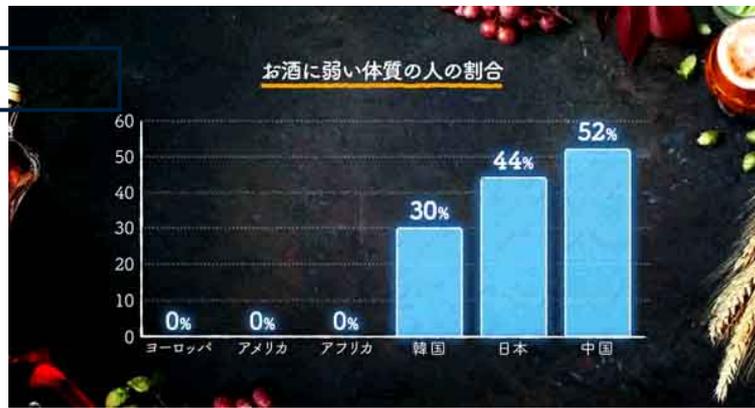
### 人はなぜ“おいしさ”なしに生きていけないのか? 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア



シェアする ?



「Effects of alcohol consumption, ALDH2 rs671 polymorphism, and Helicobacter pylori infection on the gastric cancer risk in a Korean population」

「Association between ALDH2 Glu487Lys polymorphism and the risk of esophageal cancer」をもとに作成

なぜ一部のアジア人だけ酒に弱くなってしまったのか？奇妙な大事件の発端は中国にあることが分かってきた。

謎の解明に挑んでいるのは、人類学者の李輝さんだ。中国で発掘された祖先の骨に残る遺伝子の情報を読み解き、中でも「アセトアルデヒド分解遺伝子」と呼ばれる遺伝子のタイプに李さんは注目した。



酒を飲むと、アルコールは体の中で分解されて、「アセトアルデヒド」という物質に変わる。飲むと顔が赤くなるのは、このアセトアルデヒドのしわざだ。それどころか、体中の細胞を傷つけて、がんなどの病気のリスクを上昇させる危険な物質でもある。アセトアルデヒドこそ、酒が「毒」であることの正体なのだ。

はるか昔、偶然アルコール分解遺伝子が強くなった人類の祖先は、アセトアルデヒド分解遺伝子の働きも強かったと考えられる。ところが6000年以上前、

新着記事

専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? なぜ“おいしさ”なしに生きいいのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なしられないのか？ 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア

アセトアルデヒド分解遺伝子の働きが弱い祖先が、突如中国に出現したことが分かってきた。

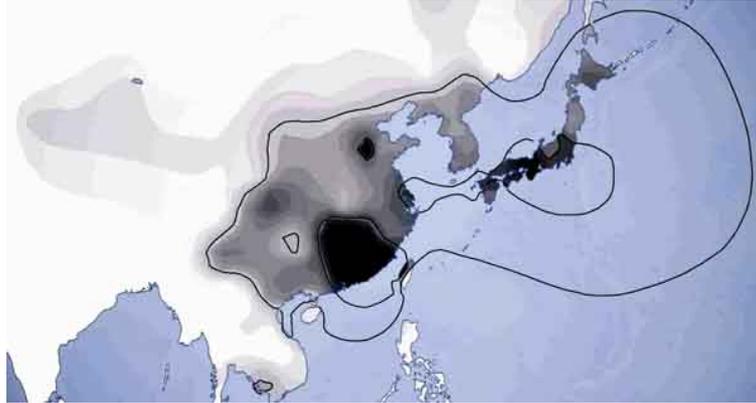
新着記事



シェアする ?

なぜ「酒に弱い遺伝子」が現れたのか？

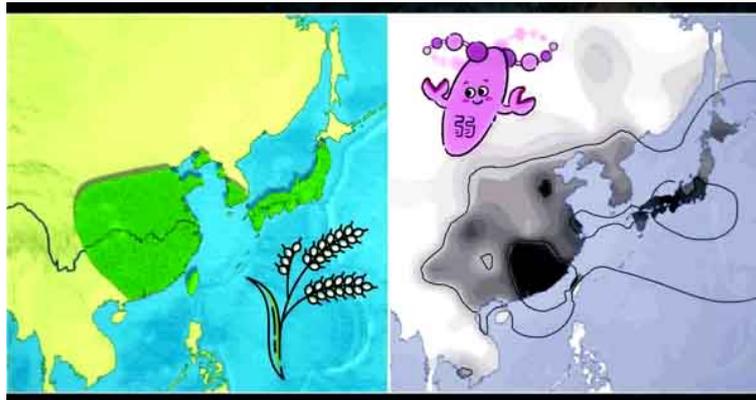
李さんの分析によると、現代のアジアでは、とくに東アジア一帯に「アセトアルデヒド分解遺伝子の働きが弱い人」が多く存在していた。



アセトアルデヒド分解遺伝子の働きが弱い人の分布。色が濃い地域ほど「酒に弱い遺伝子」を持つ人が多い

この分布を見た李さんは、「酒に弱い遺伝子」の広がり方のパターンが、アジアでの「稲作」の広まり方とよく似ていることに気づく。

稲作は中国の長江流域で始まり、まず北東部へ、次に東南部へと伝わり、その後東アジア一帯へと広がった。この稲作の分布と、「酒に弱い遺伝子」の分布を重ね合わせると、ほぼ一致する。



(左) アジアにおける稲作の広まり (右) アセトアルデヒド分解遺伝子の働きが弱い人の分布  
2つのパターンがよく似ていることに李さんは注目した

「酒に弱い遺伝子が広がったことと、稲作が始まったことには、密接な関係があると考えられるのです。」 (李輝さん)

専門家に聞く“新型コロナ  
ス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
ぜ“おいしさ”なしに生き  
いのか？

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
られないのか？ 人類を“  
ンスター”にした「3つの  
力」

2020年2月21日

シェア

## 祖先は「酒に弱くなった」おかげで生き延びた?



シェアする ?

稲作の分布と、「酒に弱い遺伝子」の分布がほぼ一致するという発見。それがなぜなのか、まだ確かなことは分かっていない。しかしいくつかの有力な仮説が提唱されている。なかでももっともらしいと太田博樹教授が考えるのが、こんな驚きのシナリオだ。

舞台は、6000年以上前の中国。稲作に適した水辺に多くの人が集まって暮らし始めていたが、当時は衛生環境も悪く、食べ物に病気を引き起こす悪い微生物などが付着することが多かったと考えられる。知らずに食べて、体内で悪い微生物が増えれば、命にも関わる。そんな時、意外なものが役に立ったと考えられる。それが、当時米から造っていた「酒」だ。

アセトアルデヒド分解遺伝子の働きが弱い祖先が酒を飲むと、体内には分解できない猛毒のアセトアルデヒドが増えていく。しかし、その毒が悪い微生物を攻撃する薬にもなった可能性があるというのだ。一方、酒に強い祖先は体内のアセトアルデヒドが少なく、悪い微生物が抑えられずに大繁殖してしまうことになる。こうして、「酒に弱い遺伝子を持つ人の方が、感染症に打ち勝って生き延びやすかった」というのが、有力な仮説の一つだ。

つまり私たちの祖先は、酒がもたらす毒まで利用して病気から身を守るという切実な事情から、「わざわざ酒に弱くなる道を選んだ」可能性があるのだ。この「酒に弱い遺伝子」が、やがて稲作文化と共に日本列島に渡来し、今では日本人のおよそ4割が「酒に弱い遺伝子タイプ」になったと考えられる。

「3000年ぐらい前に日本列島に稲作を持った人たちが入ってきた。それ以前から日本列島にいた縄文人は“酒に強い遺伝子タイプ”の人たちが多かったと考えられますが、大陸から渡ってきた“酒に弱い遺伝子タイプ”と交わり、酒に弱い日本人が増えていったんじゃないか。」（太田さん）

新着記事

専門家に聞く“新型コロナ  
ス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人  
ぜ“おいしさ”なしに生き  
いのか?

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なし  
られないのか? 人類を“  
ンスター”にした「3つの  
力」

2020年2月21日

シェア

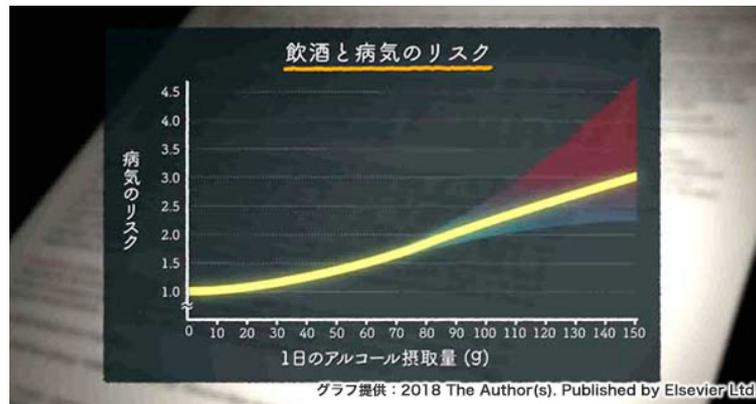


シェアする ?

私たちの祖先を病気から守る薬にもなった可能性がある、アセトアルデヒド。しかし、現代の私たちは衛生環境も良くなり、祖先のように悪い微生物におびえる必要はなくなった。そうすると、アルコールから生み出されるアセトアルデヒドは、もはや「毒」でしかない。

調査によると、アセトアルデヒドを分解する遺伝子の働きが弱い人は、飲酒で頭頸部がんになるリスクが3.6倍、食道がんは7.1倍にもなるという。

もちろん、酒に強い人も、「アセトアルデヒドが体の毒」であることは全く同じだ。個人差はあるものの、1日に飲むアルコールの量が20gを超えたあたりから、病気になるリスクが上がっていくという最新のデータが発表されている。



一方で、とくに「酒に強い遺伝子タイプ」の人は、アルコール依存症への注意も必要だと太田さんは指摘する。

「アルコール依存症になりやすいのは、酒に強い遺伝子タイプの人なんです。それくらい人間は、“酔いの快楽”への欲求をなかなか断ち切ることのできない生き物になってしまったんですね。」（太田さん）

## ノンアルコールでも“酔いに似た快楽”を味わえる!?

体は過度の酒を毒として拒む一方、脳は“酔いの快楽”に魅せられて、際限なく飲みたくなってしまふ。人類と酒の壮大な進化の果てに、私たちは悩ましい局面に追い込まれてしまった。

新着記事

### 専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

### 人類の果てなき欲望!? 人ぜ“おいしさ”なしに生きいいのか?

2020年2月21日

### 人はなぜ“おいしさ”なしられないのか? 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア

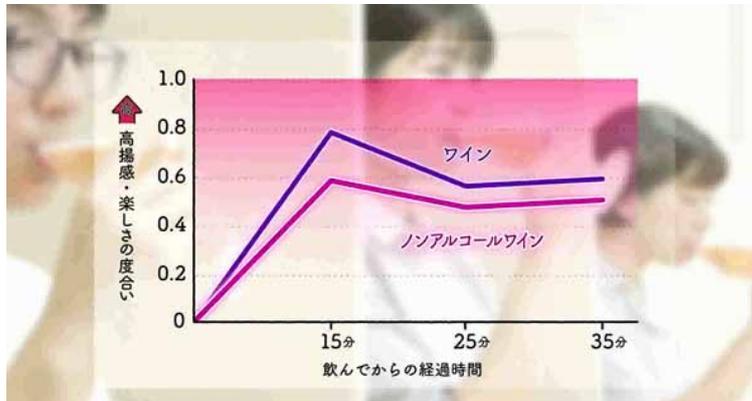


シェアする ?

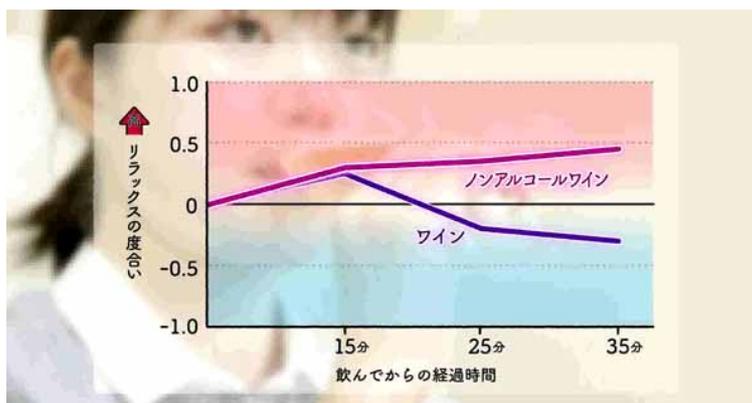
そんなジレンマを乗り越えるかのように、人類はまたもや「新たな酒」を生み出し始めた。「ノンアルコール酒」だ。なんと最近行われた実験で、「人間はノンアルコールでも“酔いに似た快樂”を味わえる」ことが分かってきた。

実験で22人にグラス一杯のノンアルコールワインを飲んでもらい、その後に感じた感覚や気分をアンケート調査。さらに、リラックスの度合いを示す自律神経の働きも装置で計測した。その結果を、アルコールを含むワインを飲んだときと比べると、興味深いことが分かった。

普通のワインを飲んだ後、被験者が感じた「楽しさと高揚感の強さ」は、アルコールの効果によって上昇した。驚くことに、ノンアルコールワインを飲んだ後も、本物のワインよりやや下がるとは言え、同じように楽しさや高揚感が上昇したのだ。さらに、自律神経の働きを見ると、普通のワインよりもノンアルコールワインを飲んだときのほうが、よりリラックスしていることを示す結果が得られた。



アルコールを含むワインと、ノンアルコールワインを飲んだ後の、「高揚感・楽しさ」の変化



アルコールを含むワインと、ノンアルコールワインを飲んだ後の、「リラックスの度合い」の変化（自律神経の活動）

新着記事

### 専門家に聞く“新型コロナ”との闘い方と対策

2020年3月27日

### 人類の果てなき欲望!? 人ぜ“おいしさ”なしに生きいいのか?

2020年2月21日

### 人はなぜ“おいしさ”なしられないのか? 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

から推定)

シェア

(グラフは「アルコール飲料及びノンアルコール飲料摂取による気分状態及び自律神経活動の変化」をもとに作成)



シェアする ?

カギを握ると考えられるのは、その人が「過去に本物の酒を飲んだときに体験した、“酔いの快楽”の記憶」。酒を飲んで脳が酔いを経験した際、それを「心地よい」と感じると“酔いの快楽”が良いものとして脳に記憶される。その後ノンアルコール酒を飲んだ際、本物そっくりの見た目や香り、味わいによってこの“酔いの快楽”の記憶が呼び覚まされ、アルコールなしでも“酔いに似た快楽”を脳が感じることができると研究者は考えている。

「本物と遜色のない味わいを持っていることで、ノンアルコール酒でも本物のお酒を飲んでいるような疑似体験をさせてくれる。『楽しさ』という記憶が、ノンアルコール酒を飲んで起こる。」（龍谷大学 山崎英恵 准教授）

## 強い人も弱い人も、“酒との理想的な関係”とは？

少量でも酔える「アルコール度数の高い酒」を造る技術を生み出した人類が、今では逆に「酒からアルコールを抜く」技術も開発している。

酒が時代を超えて「人と人を結び、社会を築く力」であり続けているからこそ、人類はアルコールの有害性を知ってもなお、知恵を尽くして「酒がもたらしてくれる恩恵」を守り続けようとしているのかもしれない。

「お酒に強いからいいとか、お酒に弱いからいいというものではない。どちらも進化の産物で、両方とも意味があると考えるのが重要です。それを受け止めた上で、楽しい飲み方をするのが大切なんじゃないかと思います。」（太田さん）

新着記事

### 専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

### 人類の果てなき欲望!? 人ぜ“おいしさ”なしに生きいいのか？

2020年2月21日

### 人はなぜ“おいしさ”なしられないのか？ 人類を“インスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

シェア



シェアする ?



期せずして地球上で“最も酒が飲める生き物”になった人類。やがて、「人と人を結ぶ酒の力」を発見し、それをいかして文明を築き上げるまでになった。

しかし、気づくと酒は私たちにとって天国と地獄の背中合わせ。そのはざま、人類は「アルコールのない酒」まで生み出して、共に酒を楽しむことの「恩恵」を大切にしている。

人類と酒の切っても切れない関係は、まさに人類進化の宿命。アルコールありでもなしでも、今夜飲む一杯は、そんな人類と酒との壮大な歴史に思いをはせながら、適度に楽しみたいものだ。

この記事は、2020年2月2日に放送した「NHKスペシャル 食の起源 第4集「酒」～飲みたくなるのは“進化の宿命”!?～」を基に制作しています。

新着記事

専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

人類の果てなき欲望!? 人なぜ“おいしさ”なしに生きられるのか?

2020年2月21日

人はなぜ“おいしさ”なしに生きられないのか? 人類を“美食モンスター”にした「3つの力」

2020年2月21日

## 新着記事



専門家に聞く“新型コロナウイルス”との闘い方と対策

2020年3月27日

記事



人類の果てなき欲望!? 人はなぜ“おいしさ”なしに生きられないのか?

2020年2月21日

記事



人はなぜ“おいしさ”なしに生きられないのか? 人類を“美食モンスター”にした「3つの特殊能力」

2020年2月21日